

PART 5 目標のお金を

1 目標の金額を 積み立てるには?

教育費や住宅の頭金、老後資金など大きな金額をためるために、積み立てをするのが早道。ここでは積み立ての基本を確認しましょう。

先々の備えには積み立てを活用しよう

毎月一定額をためれば将来はまとまった金額になる

PART 1～4でいつ、どのくらい資金が必要か目安がわかったら、次はそのお金をどのように準備するかを考えましょう。数百万円～1千万円単位の貯蓄を考えると途方に暮れてしまうかもしれません。このような大きな金額でも毎月一定額を貯蓄する積み立てを利用して長期間でためれば、目標を達成することもできます。

例えば、月々2万円、1年間に24万円を金利1%の1年複利商品で貯蓄すると、10年後には約250万円、20年後には約530万円にもなります。月々の

積立額、金利、積立年数を増やせば、それ以上の額を貯蓄することも夢ではありません。将来の夢の資金をぜひ今から準備しておきましょう。



積み立ては少しでも早く始めよう

まとまったお金をためるために時間が必要

将来のための貯蓄は大切ですが、そのために日常生活が厳しくなってしまっては困ります。また、最初に無理をして毎月の積立額を増やしてしまうと、途中で挫折してしまう原因にもなりかねませんから、月々の積立額は無理のない金額にすることが大切です。無理のない積立額の範囲でまとまったお金をためるために、時間を味方に付けることが重要となります。積み立ての期間が長ければ長いほど、大きなお金をためやすくなりますので、少しでも早く積み立てを開始して、目標を達成しましょう。

POINT

- まとまったお金をためるには積み立てが有効。
- 積立期間が長いほど、大きな額をためやすい。
- 積み立ては少しでも早く始めよう。

積み立てで準備する

PART 1

PART 2

PART 3

PART 4

PART 5

PART 6

PART 7

PART 8

二つの積立パターンをチェックしよう

積立計画を立てるために、将来の目標額に応じて積立額を決める方法と、一定の積立額から将来の金額を計算する方法を確認しましょう。

パターン1 将来の目標額に応じて積立額を決める

将来ためたい目標額と達成年数（運用金利）から、年間の必要積立額を算出してみましょう。

表1 将来100万円ためるために必要な1年間の積立額一覧（金利・年数別）

(単位：円)

金利	2年	3年	4年	5年	10年	15年	20年
0.5%	498,753	331,672	248,133	198,010	97,771	64,364	47,666
1.0%	497,512	330,022	246,281	196,040	95,582	62,124	45,415
1.5%	496,278	328,383	244,445	194,089	93,434	59,944	43,246
2.0%	495,050	326,755	242,624	192,158	91,327	57,825	41,157
3.0%	492,611	323,530	239,027	188,355	87,231	53,767	37,216

例) 10年で1,000万円を金利2.0%でためるために必要な年間積立額は？

$$\text{目標額} \quad 1,000\text{万円} \quad \div \quad 100\text{万円} \quad \times \quad \text{上表より} \quad 9万1,327円 \quad = \quad \text{年間の必要積立額} \quad \text{約}91万3,270円$$

※税金等は考慮しない

目標のお金を
積み立てで準備する

パターン2 一定の積立額から将来の金額を予測する

毎月一定額を積み立てている人は、その金額（運用金利）で将来の目標額に十分かどうか確認してみましょう。

表2 每月1万円（年間12万円）積み立てる場合の将来の貯蓄額一覧（金利・年数別）

(単位：円)

金利	2年	3年	4年	5年	10年	15年	20年
0.5%	240,600	361,803	483,612	606,030	1,227,363	1,864,386	2,517,494
1.0%	241,200	363,612	487,248	612,121	1,255,466	1,931,627	2,642,280
1.5%	241,800	365,427	490,908	618,272	1,284,327	2,001,857	2,774,840
2.0%	242,400	367,248	494,593	624,485	1,313,967	2,075,210	2,915,684
3.0%	243,600	370,908	502,035	637,096	1,375,666	2,231,870	3,224,445

例) 月2万円（年間24万円）を金利3%で積み立てると10年後にいくらになる？

$$\text{年間の積立額} \quad 24\text{万円} \quad \div \quad 12\text{万円} \quad \times \quad \text{上表より} \quad 137万5,666円 \quad = \quad \text{将来の予測貯蓄額} \quad \text{約}275万1,330円$$

※税金等は考慮しない

2

積立プランをつくる

積み立ての基本を学んだところで、さっそくあなた自身の夢をかなえるための積立プランをつくってみましょう。

複数の貯蓄目標を整理しよう

将来の夢にかかるお金に優先順位をつける

住宅購入や新車の購入、家族旅行など、将来の夢がたくさんあればあるほど、貯蓄目標も増えていくものです。とはいえ、すべての貯蓄目標を一度にためようとしてしまうと毎月の貯蓄額が高額になります。そ

うならないためには、夢に優先順位をつけることも大切です。下図のように貯蓄目標と年間・月々に必要な貯蓄額を並べてみたうえで、貯蓄額に無理があるようなら、優先度が低い夢のお金の貯蓄はもう少し先に回すことも検討してみてください。

複数の貯蓄目標を整理してみよう

複数の貯蓄目標があるときは、横並びでチェック。優先順位が低いものを後回しにするなどして、貯蓄額を調整しましょう。

優先順位が低いものは後回しにしよう

金利1%の場合							
必要な年間貯蓄額							
住宅の頭金 (7年後/300万円)	約41万6,000円(7年間)						
車買い替え代 (5年後/150万円)	約29万4,000円(5年間)						
家族旅行代 (3年後/50万円)	約16万5,000円(3年間)						
1年間に必要な貯蓄額合計	約87万5,000円	約87万5,000円	約87万5,000円	約71万円	約71万円	約41万6,000円	約41万6,000円
毎月必要な貯蓄額合計	約7万3,000円	約7万3,000円	約7万3,000円	約5万9,000円	約5万9,000円	約3万5,000円	約3万5,000円
(年)	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目	7年目

将来の貯蓄目標と優先度を書き出してみよう

あなたの将来の夢とかかるお金書き出したうえで、それぞれの貯蓄に優先度をつけてみましょう。

記入してみましょう

□ DL

※P7の20年間のライフイベントを参考に記入

目的	目標達成時期	目標金額	優先度(高・中・低)
(例) 車の買い替え代	5年後	150万円	高・中・低
	年後	万円	高・中・低

年間＆月々に必要な貯蓄額を確認しよう

具体的な積立プランが夢をかなえるカギ

貯蓄に優先順位をつけたら、目標金額と達成までの年数から、それぞれの貯蓄目標を達成するために必要な毎月の積立額を算出してみましょう。この計算には、P37表1の「将来100万円ためるために必要な1年間の積立額一覧」を利用します。例えば、10年後、金利2%で500万円をためたい場合は、 $500\text{万円} \div 100\text{万円} \times [100\text{万円ためるために必要な1年間の積立額}]$ （金利2%、10年に該当する金額）で、年間の必要積立額を算出できます。これを12カ月で割った額が、毎月の必要積立額です。

POINT

- 貯蓄目標が複数あるときには、それぞれの優先順位を考えよう。
- 優先順位が高い貯蓄目標を達成するのに必要な年間＆月々の積立額を計算してみよう。

優先度が高い項目の積立プランを立てよう □DL

P38で書き出した将来の貯蓄目標の中で優先度が高かった項目の年間＆月々の必要積立額を計算してみましょう。

記入してみましょう

目的／目標達成時期／目標金額	$\div 100\text{万円} \times$	※P37(表1)を参考して記入	年間の必要積立額	月々の必要積立額
(例) 旅行／5年後／50万円	$\div 100\text{万円} \times$	19万8,010円※	= 約9万9,000円	約8,250円
／ 年後／ 万円	$\div 100\text{万円} \times$	円	= 円	円
／ 年後／ 万円	$\div 100\text{万円} \times$	円	= 円	円

※金利0.5%の場合

年間＆月々の必要積立額の合計

目標のお金を
積み立てて準備する

単利と複利は何か違う？

利子のつき方には、「単利」と「複利」があり、「単利」はついた利子が元本に組み込まれませんが、「複利」はついた利子が元本に組み込まれます。このため「複利」では利子がプラスされて増えた元本に対してさらに利子がつくことになり、右の図のように、同じお金を同期間、同金利で積み立てた場合でも、より多くのお金をためることができます。

単利と複利の増え方の差

毎月5万円を金利3%で20年間積み立てた場合(単利と1年複利)

